

(公開学習Ⅱ) 第6学年1組 音楽科学習指導案

授業者 大野 桂
音楽室

1 題材名 世界の音楽に親しもう

2 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、新学習指導要領で次のような内容に位置づけられている。

B鑑賞 (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やよさを理解すること。

本題材は、諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しむようにすることができるものである。我が国同様、諸外国にもそれぞれの国の風土や民族性によって育まれてきた独自の文化があり、音楽についてもその例外ではない。「音楽」という窓から外国を見ることによって、我が国とは違った音楽文化があることに気づくとともに、それぞれの国の音楽のよさを感じ取ることで、親しみをもち、世界の音楽が身近なものになっていく。こうした学習は、他国の芸術や文化を尊重する態度を養うことにもつながり、国際理解の一翼を担うことにもなる。そして子ども一人一人の音楽観の拡大につながられるものとなる。また、音楽を形づくっている要素とのかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解しながら聴く活動は、楽曲を聴いて想像したり感じ取ったりしたことを、その国独特の旋律やリズム、調性など、音楽的な言葉で表す力の伸長につながるものと考えられる。

(2) 子どもと教師

本学級の児童は、5年生で「ゴスペル」すなわちスピリチュアル音楽を学習している。そのときには、アフリカから強制的にアメリカに連れてこられた黒人たちが、辛い労働を乗り越えながら生きることによって光を見出すために歌ってきたという歴史を学び、その想いをのせて力強く歌唱表現した。また「龍神太鼓」では、雨を乞う思いや願いについて考え、和太鼓に込めて演奏した。このような学習を通して音楽には人々のさまざまな思いや願いが込められていることや表現方法の多様性に気づきつつある。さらに、6年生になった子どもたちは、「日本の音楽のルーツⅠ」の学習で日本独特の楽器や音楽の特徴について気づき、箏の体験学習を通してその気づきを実感した。本題材では、世界の国々の音楽を楽器に焦点を絞って鑑賞する。本時はその中からアンデス地方に伝わるフォルクローレと呼ばれる音楽について再度鑑賞し、旋律やリズムからフォルクローレの音楽の雰囲気や特徴を感じ取ることができるようにする。さらに感じ取ったことを表現に生かす活動を取り入れることで、見つけた世界のさまざまな音楽と日本の音楽との相違点を実感を伴った理解へとつながり、子どもたち一人一人の音楽観の広がりを期待することができると思う。

(3) 子どもと教材

子どもたちは今や世界各国の音楽を耳にできる時代を生きている。女子の間では韓国のアイドルグループ「少女時代」や「KARA」が人気で、毎朝アップテンポでノリのいいリズムに合わせて歌ったり、踊ったりしている。6年生になった子どもたちは、社会科で歴史の学習が始まり、昔の人の生活の様式に関心をもったり、先人の努力や苦勞、たくさんの人の命を引き継いで自分たちの時代が築かれてきたことを理解したりし始めている。しかし、世界の音楽についてはそれぞれの音楽がばらば

らな状態としてしか捉えられていない。4月、日本の音楽を「和風な感じ」とか「お正月にしか聴かないような音楽」のように漠然としたイメージしかもっていなかった子どもたちも、5・6月に日本の音楽のルーツを学び日本独特の音楽の特徴を感受し、箏の体験学習を通して理解を深めた。そこで日本から世界へと目を向け、世界の音楽のルーツを探る中で、音楽や楽器の誕生には大きくその国の風土や文化が関係していることに気づかせ、世界の国々のさまざまな音楽から自分にあった表現活動を見つけたり、その魅力を探ったりする活動を通して世界と自分との距離をどんどん縮めたりすることができると思う。

指導にあたっては、歴史的な背景とともに音楽の美しさを感じ取ったり、音楽を聴いてその時代に生きる人々の思いや暮らしに思いをはせたりすることができるように、視覚的な支援や社会科との学習と関連づけながらすすめたい。世界の音楽ともなるとその数は多数で特徴も多岐にわたる。そこで、本題材では民族音楽の楽器に焦点をあてて民族独特の表現を味わい、そこからさまざまな民族の思いや願いを想像することで、音楽の世界と同様に世界全体を広い視野で見たり理解したりする態度につなげていきたい。また、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取ったり、楽曲の構造を理解したりして聴くことができるよう、本時は「風とケーナのロマンス」を異なる楽器での演奏で聴き比べることでアンデス地方の音楽の魅力に迫るようにする。また、友だちとの学び合いを取り入れ、自分たちの気づきを共有し合う中で、想像したことや感じ取ったことがどんな音楽的な要素と関わっているのか考えられるようにする。さらに創作表現活動につなげることで、感受した音楽の特徴を形づくっている要素や音楽の仕組みについて実感をもって理解させたい。

3 題材の目標

- ・世界の国々の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、諸外国の音楽に親しむようにする。
- ・世界の国々の楽器の響きの美しさや音楽のよさを味わいながら聴いたり、その雰囲気を生かして表現したりすることができるようにする。

4 学習計画（全7時間）

- 第1次 第1時 世界の音楽のルーツを探ろう
 第2時 世界の音楽（楽器）を鑑賞しよう
- 第2次 アンデス地方の音楽に親しもう
 第1時 「アンデス地方の音楽」の魅力さをさぐろう【本時】
 第2時 「アンデスの地方の音楽」を演奏しよう
 第3・4時 「アンデスの地方の音楽」を工夫して演奏しよう
 第4時 お気に入りの音楽を発表しよう

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	世界の多様な音楽に関心を持ち、それぞれの国の楽器や音楽のよさを味わったり、それを生かして表現したりする学習に意欲的に取り組もうとしている。	旋律の特徴や歌詞から曲想を感じ取って演奏の仕方を工夫したり、リズムの組み合わせ方や強弱について見通しをもって工夫したりしている。	曲想を感じ取って、旋律の表現の仕方やリズム伴奏を工夫して演奏したり、見通しをもつてつくったリズムを音楽に構成したりしている。	世界の国々の音楽の違いを感じ取り、友だちにそのよさを紹介するなどして、それぞれの音楽のよさを味わって聴いている。

6 本時の学習について

(1) 本時の目標

アンデス地方の音楽の特徴を捉え、自分の言葉で表現することができる。

(2) 期待される児童の様相

- A アンデス地方の音楽の特徴を、根拠をもって友だちに説明する。
- B アンデス地方の音楽の特徴を、友だちの発見をもとにしながら理解する。
- C アンデス地方の音楽の特徴を知ることができる。

(3) 準備

鑑賞用 CD, 付箋紙, 楽譜, ワークシート

(4) 本時の展開 (●教師の意図 ○教師の支援)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
<p>1 アンデス地方の音楽「風とケーナのロマンス」他2曲を鑑賞し、どの地方の音楽か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器は違うけど、アンデス地方らしい感じがするなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な楽器ケーナで演奏していないのに、アンデス地方の音楽だと分かることに疑問をもたせたい。 ○鑑賞した音楽の地方が分かるような地図を見せ、前時を思い起こす事ができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <h2 style="margin: 0;">「アンデスらしさ」を感じるのはなぜだろう</h2> </div>	
<p>2 本時のめあてを知り、再度曲を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哀愁が漂っている感じがする。 ・聴くとさみしい気持ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どうしてそのように感じたのか一人一人がその理由を言葉で表現できるようにしたい。 ○アンデスらしさ=□□ 感受したアンデスの音楽の特徴を簡単な言葉で表現させる。
<p>3 「アンデスらしさ」を感じるのはなぜかをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半音下がったり上がったりすることがさみしさを感じさせるんじゃないかな。 ・音が迷いながら上がったり下がったりしている。 ・使っている音階にきまりがあるのかもしれないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽を特徴づける部分を楽譜で確かめさせたい。 ○自分が感じたことが楽譜のどの部分にあたるのか確認できるようにする。《個人》 ○曲の構造・テンポ・調性・拍子のキーワードを板書し、聴くポイントを示し、旋律の流れに着目できるように主旋律のみの楽譜を使用する。 ○付箋紙を楽譜に貼りながら、アンデス地方の音楽らしさは何なのかを話し合うようにする。《グループ》 ○繰り返し曲を流し、話し合い活動が活性化するようにする。 ○5音音階について触れ、次の活動に生かす。
<p>4 グループでの話し合いをみんなで共有し、旋律作りに挑戦する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「アンデスらしさ」の特徴を実感をもって確かめさせたい。 ○楽譜と音とを確かめながら説明させ、簡単な旋律作りを紹介して特徴を理解できるようにする。
<p>5 次時について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●次時の見通しをもたせ、自分に合った表現を見つけられるようにしたい。 ○次時はアンデス地方の音楽3曲の中から、A歌唱 Bリーダー Cリズム伴奏 のいずれかを選択して練習することを知らせる。